

## 卒業研究・卒業論文

担当教員：野村浩也

授業の最終目標は卒論を書くことですが、重要なのはむしろ完成までのプロセスです。

卒論を書くためには学問的な文献を読む必要がありますが、引用や参考文献リストのない文献はありません。なぜでしょうか。

それは、発生論的にいうと、著者が先人という他者から受け取った宝を別の他者に手渡すためです。宝をあなたに手渡すためです。そして、引用と参考文献リストを通じて宝を手渡し続けてきたのが学問なのです。学問はそうやって何千年も受け継がれてきたのです。

その意味で、卒論を書くために文献を読むことは宝を受け取ることです。卒論を書くことは、あなたが宝を受け取ったことを証明する行為です。そして、卒論を書くことによって、受け取った宝を、引用と参考文献リストとともに後輩たちに手渡すことができるのです。

文献を読んで卒論を書くことは、宝を自分の血肉にするプロセスです。卒論はこのプロセスを記述したものともいえるでしょう。しかも、これは自分にしかできないことなのです。他者が代わりにやってあげられることはありません。だからこそ、唯一無二の価値を有するのです。卒論を完成させることは、あなたにしかできない唯一無二の価値を創造する行為なのです。そして、卒論そのものは、あなたが価値を創造したことを証明する新たな宝として後輩たちに手渡されます。そうやって、あなたは「学問界」の一員となるのです。

最後に、この授業の履修条件は、2026 年度開講の文化社会学 B（前期）とカルチュラル・スタディーズ B（後期）を併せて履修するか既修であることです。講義科目を受講することも宝を受け取るチャンスだからです。ということで、この授業は誰でも履修可能です。もちろん、テーマも自由です。開講は毎週火曜の 3 限以降。場所は 3 号館 226 野村研究室です。

以上